

国土交通省近畿地方整備局姫路河川国道事務所メールマガジン  
「しらさぎメール」 Vol. 22

H20. 9. 24

※このメールマガジンはMSゴシック等の等幅フォントでご覧ください。

★もくじ★

- 〔1〕 1分で分かる姫路河川国道事務所の仕事「所長の一分メモ」  
備えあれば憂いなし
- 〔2〕 お知らせ  
ダイヤルイン利用についてのお願い

〔1〕 所長の一分メモ file21

今年は空梅雨そして台風などのまとまった降雨が無いため、播磨地域でも水不足が心配されています。

主たる水源である加古川、揖保川の両流域も6月以降の降雨は過去10年平均の半分以下であり、加古川にある利水ダムの貯水量が平年よりもかなり少なく、揖保川では水の流れが途切れる「瀬切れ」が長らく発生しています。

両流域を管理する姫路河川国道事務所では、先週両河川における濁水連絡会議を開催し、関係者間の情報共有を行うとともに、もしもの事態を想定し早めに対策が打てるよう連絡体制を強化いたしました。

濁水対策は、いかに早く行動を取り始めるかが重要です。普段あたりまえに使っている水ですが、いったん不足するとパニックが発生したり、給水に不平等があると地域間や関係者間でトラブルが発生したりします。また「瀬切れ」は生物の生息・生育環境に大きなダメージを与えかねません。水は私たちの生命を守り、作物や産業になくてはならない物ですから、その影響は計り知れません。

幸い、水田に水を多く必要とする時期は過ぎましたので、すぐに水供給に影響がでるまでには至っていませんが、このままの少雨傾向が続くと「濁水」という事態にもなりかねませんので、地域の皆さんが安心して生活していただけるよう、早めの行動を取っているのです。「備えあれば憂いなし」です。

ところで、もしも加古川や揖保川に利水ダムがなかったらどうなっているのでしょうか？ 当事務所の加古川大堰に関する試算では、もし大堰がなかったら今年のお盆時期くらいに加

